

国鉄「分割・民営化」阻止！三里塚二期着工粉碎！

85春闘勝利！3・29千葉労働者総決起集会

「85国民春闘を勝利する千葉県労働者総決起集会」が3月29日千葉市・都川公園で開かれ、動労千葉80名をはじめ、県下労働者一〇〇〇名の結集のもと、官民一体となり反動中曽根内閣と対決し、大幅賃上げ獲得へ総決起することを誓いあつた。

4月内決着をめざして闘う

冒頭、主催者を代表して起つた井原県春闘議長は、「85春闘は守りの春闘から攻めの春闘として闘おう」とあいさつ、続いて清水県春闘事務局長より「闘う態勢はある。軍事大国化を目指す中曽根内閣と対決し、時短、年金制度改悪、防衛費増額、大型間接税導入反対の闘い、さらに国鉄『分割・民営化』・教育臨調粉碎の闘いと結合し闘いぬこう」「ストライキを背景に4月第一週の闘い、第二週の集中決戦ゾーンの山場の闘い、第三、四週の闘いと手をゆるめることなく、4月内決着を目指し闘おう」と情勢報告と方針の提起を受けた。

千教組、国労、県私鉄より闘う決意表明を受けたのち、スローガン採択、集会宣言を全体で確認し、千葉駅前までデモ行進し終了した。

中曽根との対決なしに生活は守れない

85春闘をめぐる情勢は、経団連会長・稲山の「ベアの時代は終わった。賃金は定昇とボーナスで」発言、日経連臨時総会における「行革推進・全面賃金ストップ」路線の再確認、さらに、金属労協（IMF・JC）の財界と一体となった低額一発回答引き出し、春闘相場全体の抑えこみ策動など厳しい情勢にある。

こうしたなかで公務員、公労協労働者に対して、反動中曽根の行革攻撃の一環としての賃金抑圧攻撃が熾烈にかけられてきており、とりわけ国鉄労働者に対し

ては、「赤字」を口実にした賃金差別攻撃がかけられてきている。

まさに、資本―中曽根と真向から対決する路線以外労働者の生活を守ることができないことがますます鮮明となつてきている。

「60・3」―13・24総決起の力で85春闘に勝利しよう

動労千葉は、この85春闘があらゆる意味で今後のわれわれの賃金動向を決する重大な闘いであるという認識のもと、第11回定期委員会において過員対策攻撃・職場規律攻撃粉碎、3・24総決起を軸に中曽根の反動攻勢と対決することと結合して85春闘勝利を目指すという方針を確認し、すでに3・24では、三度の5割動員を実現してきた。

われわれは、この成果にふまえ、4月中・下旬の山場に向け、総評、県労連の呼びかける春闘行動に積極的に取り組むと同時に、新賃金要求にもとづく団体交渉を中心し、公労委の活用やストライキも含むあらゆる戦術を行使して闘うことを決定している。

同時に、今日「60・3」闘争の貫徹、3・245割動員の実現などの動労千葉の前進においづめられた動労「本部」革マルによる謀略的組織破壊攻撃がよまつていることも見すえ、より一層階級的警戒心を高め、組織の団結強化をかちとる取り組みを今次春闘の闘いと結合し行うことも決定している。

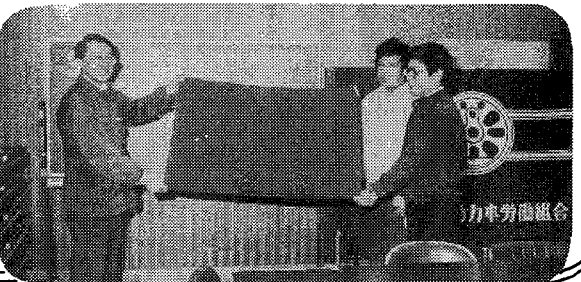
全組合員が総屈服状況をのりこえ、「60・3」―13・24総決起の力で、85春闘勝利へ全力で闘いぬこう。

三里塚―反戦―反合の闘いさびや 沖繩行動団・動労千葉交流会



三月二五日、動力車会館において沖繩行動団との交流会が行われた。交流会には、大城昌夫氏を先頭に、全駐労、全電通、民間労働者、学生など、前日3・24三里塚現地集會に五〇名をこえる参加をかちとつた沖繩行動団の代表十七名が出席、動労千葉からは水野副委員長、片岡執行委員らが参加し、二時間にわたり交流がcaちとられた。

ている沖繩での闘いの報告と決意をうけ、さらに動労千葉水野副委員長より、「60・3」闘争、3・24五割動員の闘いの報告、三里塚労働連帯の報告を受けたのち交流に入った。四月民営化を前に職場規律攻撃、首切り合理化攻撃、さらに指導部の企業防衛主義的屈服と闘いぬいでいる電通労働者の報告、全駐労の労働者からの沖繩における革マルの屈服の現状報告を始め多くの報告、応答がかわされ、総屈服状況の中で唯一決起した動労千葉への期待と、三里塚を基軸として中曽根と対決し勝利することを互に誓い合い終了した。



反戦反核反基地闘争の最先頭で闘う沖繩の仲間から力強い檄布が送られました。

全組合員・家族の強固な団結で組織破壊攻撃を粉碎せよ！